

1 教育方針

- 建学の精神に則り「体・徳・知」の調和のとれた、科学的思考のできる人材を育成する。
- 学問を好み、学力充実のために刻苦勉励し、併せて人徳を備えた人材を育成する。
- 人の立場を理解し、自己を抑制し、思いやりや優しさを備え、人のために汗を流せる、奉仕精神旺盛な人材を育成する。
- 多様化する社会の中で困難な状況下であっても、不撓不屈の精神を持ち、リーダーシップを発揮できる人材を育成する。

2 本年度の教育重点目標

- 4つの生活信条「奉仕精神を旺盛にする」、「人の立場を深く理解する」、「物を大切に」、「礼儀作法を実践する」を実践し、心豊かで社会に貢献できる人材の育成を図る。
- 学習指導、進路指導、生活指導、広報活動の更なる充実を図る。
- 施設設備の充実(駐輪場の整備など)、教育環境の整備を図る。
- 生徒の諸活動(学校行事、部活動、生徒会活動)の充実を図る。

3 自己評価総括表

| 評価項目 |                  | 評価の観点(具体的目標)  | 具体的方策  | 評価 | 成果と課題   |
|------|------------------|---|--|----|---|
| 大項目  | 小項目              |   |  |    |   |
| 学校経営 | 特色ある学校づくり        | ①「体・徳・知」の調和のとれ、科学的思考のできる人材を育成する。<br>②コースの特色、生徒一人一人の個性を生かした教育活動を展開する。                                | ・本校の4つの生活信条「奉・人・物・礼」を実践する学校生活、教育活動を推進する。<br>・進歩より深度を基本に授業を展開し、進学、就職の実績を高める。<br>・全国レベルの部活動や文科系部活動の更なる活性化を図る。  | B  | 授業や部活動、学校行事等を中心とした、本校の教育活動に大半の生徒が真摯に取り組み、日々努力している。就職内定は100%を今年度も達成、センター試験受験者増の成果があった。部活動も全国、九州、県レベルの活躍が見られた。体育館完成を機に、新たな方向性を目指した取り組みが必要である。                         |
|      | 開かれた学校づくり        | ①学校のHPや広報誌「文徳点描」で適切な情報発信をし、学校理解を進める。<br>②保護者、地域及び関係機関との連携を図る。                                       | ・HPや「文徳点描」の更なる充実を進める。<br>・内部広報の充実を図る。<br>・PTAや同窓会、学校評議員、地域等と連携し、協力体制を構築し、生徒支援の教育活動を高める。  | B  | 最大にして最良の広報活動は教育活動内容と生徒の姿であることを踏まえ、適切な情報発信ができた。外部からの視点に立ち、より理解し易い情報提供等に工夫改善が必要である。   |
|      | 教育環境の整備          | ①教育環境整備計画を推進する。<br>②適宜施設整備を点検し、危険箇所等の早期発見、早期対応を図る。  | ・体育館及び周辺整備を進める。<br>・実習棟建設を進める。<br>・老朽化した設備等の交換・修理を進める。   | B  | 新体育館は計画通り25年度末に竣工し、実習棟も26年度末に竣工予定である。今後も生徒の教育活動や学校生活に重きを置いた環境整備の検討が必要である。   |
| 学力向上 | 授業力の向上           | ①学習指導方法の工夫・改善を施し、授業の充実を図る。<br>②3年間を見通した指導計画に基づき学力の定着・向上を図る。   | ・研究授業・公開授業の実施、先進校視察、各種研修会等への積極的参加を図る。<br>・より完成度の高いシラバスを作成し、教科の目標に沿った授業を展開する。   | B  | 英語科等で公開授業や授業研究会、若手教師の他校視察、外部の研修会参加等の積極的な動きがあった。全教科シラバスを作成しているが、生徒に理解させた上での授業実践までは今一步である。  |
|      | 学習習慣             | ③家庭学習の習慣化を図る。<br>④課題学習、課題演習等による学びの活性化を図る。   | ・教務・進路・学年が連携し、自宅での学習時間調査を実施。個々への対応を図る。<br>・特別時間設定による課題演習を実施し、学習の習慣化を図る。  | B  | 落ち着いたある授業は展開されているが、予習・復習・家庭学習の習慣化はまだ課題が多い。1年普通科普通コースの基礎学力向上等定着した取り組みもあった。   |
|      | 読書指導             | ⑤本に親しむ環境、多面的に知を求める姿を育成する。   | ・図書館教育、読書指導の充実を図る。<br>・継続的朝読書を定着させ、落ち着いた学校生活・授業に向かう姿勢を身に付けさせる。   | C  | 年度当初は朝読書は機能していた。図書館活用や読書週間の定着には、学校全体で検討、対策を講じる必要がある。  |
| 生徒指導 | 基本的生活習慣の確立       | ①情報化社会に伴う諸問題の把握と加害・被害防止対策<br>②薬物乱用防止の啓発と運動の推進<br>③服装指導の徹底<br>④掃除の徹底<br>⑤ルール遵守の徹底<br>⑥生活信条の実践        | ・情報化社会の中、インターネットの被害、情報人権教育の徹底。<br>・フィルタリングの徹底を外部講師に依頼し、正しく生きる力を培う。<br>・年度当初に適応指導を確立し、学年に応じた生活習慣を確立させる。<br>・薬物乱用防止の啓発と運動の推進を外部講師等に依頼し、正しい知識を身に付けさせる。                  | B  | 各学年や諸機関と連携し、将来性のある生徒たちの健全育成に努めた。急激な社会情勢の変化や情報の氾濫などによる、規範意識の低下、マナーの欠如が見られ、生徒たちの人格形成に重大な影響を及ぼしている。自転車や公共交通機関利用に関するマナーの向上、ルールについては常に注意を促し、交通安全に対する意識の高揚を更に推進していく必要がある。 |
| 進路指導 | 進路目標設定<br>進路情報提供 | ①進路に関する指導・支援を強める。<br>②進路目標設定指導の充実を図る。<br>③進路ガイダンス機能の充実を図る。<br>④就職希望者の全員合格を継続する。<br>⑤国公立大学への合格者を増やす。 | ・学年と連携し、生徒の進路意識を高め、学習意欲や計画的学習に取り組む姿勢に繋げる。<br>・定期的な進路希望調査等を実施する。<br>・LHRや総合的学習の時間を活用し、進路学習を推進する。<br>・進路講演会や講座の機会を設ける。<br>・崇城大学での体験入学や他大学見学、インターシップに参加する等、将来設計の機会を与える。 | B  | 各学年の状況に合わせた講演会やガイダンスを計画し、職業意識の向上、進路選択を考える機会を与えることができた。学力向上を意図する授業や課外授業等、職員・生徒共に不断の努力が見られた。多様なニーズを持つ個々の生徒の進路目標・設定、計画的な学習の確立までには至っていない。個々の進路ガイダンスについて改善が求められる。        |
| 特別活動 | 学校生活、学校行事の充実     | ①生徒一人ひとりが学校行事や生徒会行事、学級行事に積極的姿勢で参加する。<br>②生徒会活動の活性化と学校行事の見直しを図る。                                     | ・生徒会の役割、各委員会の運営等を整理し、主体的に活動するため見直しをする。<br>・文化祭やクラスマッチ等の行事の見直しを進める。<br>・学級役員を中心としたHR活動の活性化を図る。  | B  | 生徒会各委員会の組織や運営の見直しを進めた。生徒主体の学校行事の満足度は低い。新体育館完成により26年度は環境も整い、改善が見込まれる。ここ数年、大半の生徒会役員選挙は無投票で決まっている。生徒たちの生徒会意識が低い。学級役員を含め生徒が積極的に活動する場を支援する必要がある。                         |

評価基準 A：十分達成 B：概ね達成 C：やや不十分 D：不十分

| 評価項目    |       | 評価の観点                     | 具体的目標                         | 具体的方策   | 評価   | 成果と課題  |
|---------|-------|---------------------------|-------------------------------|---|--|--|
| 大項目     | 小項目   |                           |                               |   |  |  |
| 各部及び理工科 | 総務部   | 円滑な学校行事の実施                | ①諸学校行事の円滑な企画・運営を図る。           | ・早めの企画。<br>・周知の徹底。<br>・行事後の反省。<br>・点検と事後の改善。  | A  | 今年度より入学式、始・終業式が新体育館で行われた。これまでの段取りと違う部分があったが、混乱なく行えた。   |
|         |       | 人権教育の推進                   | ②人権教育の充実を図る。                  | ・校内研修の充実。<br>・校外研修への積極的参加。<br>・LHRにおける指導の充実。  | B  | 生徒への講演会、職員研修は予定通り行えた。LHRへの働きかけを今後考えていく必要がある。   |
|         |       | P T A等学校関係機関との連携          | ③P T A活動の充実を図る。               | ・学校との連携・調整。<br>・教育活動への支援・協力体制の充実を図る。<br>・外部関係団体との連携を強化する。                                 | A  | 学校とP T Aとの連携や協力体制は非常にスムーズであった。高等部と中等部で別であった保護者会が次年度より一つになる予定である。これまで以上に円滑に運営できるように働きかける。             |
|         |       | 防災                        | ④防災対策の推進を図る。                  | ・学校環境、立地条件を踏まえた対策を考える。  | C  | 校舎建築中のため、簡易的な防災訓練を実施した。今後避難場所を確定し訓練を行う。また防災対策を促していく。   |
|         |       | 記録・資料                     | ⑤学校関係記録・保管の整備を図る。             | ・60周年記念事業等を踏まえた資料の収集・保管に努める。  | B  | 職員会議録の整理はできている。60周年記念事業を踏まえた長期計画が明確になっていない。  |
|         | 生徒指導部 | 学校生活の充実                   | ①生徒の基本的な生活習慣の確立を図る。           | ・声を出して挨拶のできる生徒を育成する。<br>・校則を遵守し、正しい服装・頭髪、落ちついた生活のできる生徒を育成する。<br>・適切なコミュニケーションのできる生徒を育成する。 | A  | 毎日の職員による校門指導や学年と連携した服装検査や頭髪検査等により、大きな乱れはない。アンケートでは、職員、生徒共に生活習慣が身につく元々よく学校生活を送っていると肯定的に評価している。        |
|         |       |                           | ②生命を尊重し、安全で健康な心身の確立を図る。       | ・交通道德・マナーの遵守及び安全意識の高揚を図る<br>・自己の心と体を知り、健全な学校生活を送らせる。                                      | B  | 薬物乱用防止の講話や毎月学校交通安全日を設定し事故防止の呼びかけ等を実施している。今後自転車利用における法令順守、マナーの指導を強めたい。                                |
|         |       | 社会性の涵養                    | ③自主性を養い、勤労意欲に満ちた生徒の育成を図る。     | ・校外内の環境美化に努め、施設・設備を大切にす精神の育成を図る。<br>・ボランティア精神・活動の育成と実践を支援する。<br>・部活動や学校行事等への積極的参加を支援する。   | B  | 1、2年全員が学校周辺の駅や通学路の清掃活動を実施。各部活動で清掃活動や校外での催しにボランティア参加するなど、積極的な活動があった。施設・設備を始め、「もの」を大切にす心の育成の手立てが求められる。 |
|         |       |                           | ④特別教育活動の推進を図る。                | ・自主的な生徒会活動・委員会活動の推進及び活性化を支援する。<br>・自主的な部活動の推進および活性化を図る。                                   | B  | 部活動については肯定的に捉えているが、学校行事についてのアンケートによると、25年(33%)、26年(50%)が、活発であるとは思っていない。                              |
|         | 保健部   | 健康教育の推進                   | ①自己を知り、体と心を鍛え健康で衛生的な生活の推進を図る。 | ・校医検診を始めとする各検査結果の適切な指導処置を図る。<br>・保健衛生の啓発とその定着   | A  | 生徒、職員共に高い割合で肯定的な捉え方をしている。今後は保健衛生の啓発と定着を図りたい。   |
|         |       |                           | 環境美化の推進                       | ②生命尊重を基盤とした、健康で安全な行動・実践力の養成を図る。   | ・学校内外での活動(体育行事や学校行事)での適切な指導を行う。<br>・安全・衛生的な環境整備の確立や安全点検の実施を行う。<br>・心身の健康に問題を有する生徒への対応の充実を図る。 | B  |
|         |       | ③学校内外の環境美化推進及び奉仕精神の育成を図る。 |                               | ・全職員による清掃指導の強化を図る。<br>・教室・部室などの環境整備や美化意識の向上を図る。   | B  | 全体指導に加え今後は部室等も含めた、校内全体の美化への指導を図ると共に奉仕精神の向上への取り組みも必要である。  |
|         | 図書部   | 読書習慣の定着<br>図書館利用の促進       | ①読書意欲を高める図書館教育を推進する。          | ・生徒が利用しやすい環境整備と蔵書の充実を図る。<br>・読書週間等の企画や図書館便り等で読書推進活動を強化する。                                 | B  | 読書に関するアンケートにおいて、生徒の約70%が図書室に行ったことがあると答え、週に1~2回の頻度で足を運んでいると回答した。『図書館便り』等を活用し、今後更に生徒の足が図書室に向かうようにしたい。  |
|         |       |                           | ②情報センターとしての機能充実を図る。           | ・教科関係資料や各種文献、蔵書、書庫等の整理とデータ化を進める。  | B  | 各教科に図書購入費の予算がある。各教科主任を通じて、必要な教材の購入にあたっている。(例 理科 キャンベル生物学原書9版)また、例年『金峰』を発刊し、生徒の感想文等の作品を掲載している。        |

評価基準 A：十分達成 B：概ね達成 C：やや不十分 D：不十分

| 評価項目    |       | 評価の観点                        | 具体的目標                                   | 具体的方策   | 評価 | 成果と課題  |
|---------|-------|------------------------------|---|---|----|--|
| 大項目     | 小項目   |                              |   |   |    |  |
| 各部及び理工科 | 教務部   | 自ら学ぶ姿勢の育成                    | ①授業時数の確保、授業の充実を図る。                      | ・短縮授業、振替授業等で自習時間の減少を図る。<br>・教育課程の適宜改善を図る<br>・研究授業等を実践し、指導方法の工夫・改善を図る。   | B  | 特別時間割等で授業時間の確保はある程度できた。教育課程は生徒、各コースの目標達成のため改善を図った。授業展開の改善・工夫は各教科で検討・推進が図られた。   |
|         |       | 学力向上                         | ②生徒の学ぶ姿勢を高め、学習成果に繋ぐ指導を図る。               | ・生徒の「自己教育力」の意識を促す。<br>・自宅での学習時間調査等を実施し、生徒個々への適切な指導を進める。<br>・考査等への取組を深め、学習意欲向上を進める。  | B  | 授業に臨む姿勢について、アンケートによると生徒の80%は積極的と回答しているが、職員60%は否定的に捉えている。生徒のニーズが多様化している面もあるが、学力向上への取り組みは今後も強めていく。   |
|         |       | 教科指導の充実                      | ③各種教務関係書式等を見直し、効率的な事務処理を推進する。           | ・諸処理が正確、迅速、適切なものとなる工夫・改善を図る。<br>・教務規定や事務処理等について全職員に周知・徹底を図る。  | B  | 組織が大きく複雑な面もあるが教務提案に則り、各教科・担当者での検討・対応が図られ効率的な処理が進んでいる。  |
|         |       |                              | ④生徒理解の上に立ち、教科間連携を深め、進路指導との結びつきを図る。      | ・教科主任会や関係部担当者会等を設け、生徒の学力向上対策を進める。<br>・3年間を見通した授業計画及び授業内容の精選を図る。   | A  | 分かりやすい授業の展開について、生徒は96%が肯定的な評価をしている。学力の定着から進路に繋ぐ学習活動を今後も推進していく。   |
|         | 進路指導部 | 多様なニーズを持つ一人ひとりの生徒に応じた進路指導の推進 | ①多様化する生徒個々の進路目標への対応を推進する。               | ・進路情報の的確な提供と進路意識の高揚・啓発を図る。<br>・進路講演会や出前授業の実施する。<br>・進路担当者や担任との個人面談強化を図る。<br>・外部教育力の活用（職員研修）を図る。<br>・オープンキャンパス等への積極的参加を奨励する。 | B  | 各学期に担任との二者面談、夏休み・春休みを利用して保護者を交えた三者面談などの取り組みを実施し、進路意識の啓発に努めた。特に3年生に対しては、きめ細かい指導が行われた。学年会や教科会では、共通理解は深まったが、学校全体までの情報の共有や活用の域に至っていない。まずは全職員が活用できる情報提供の改善を図りたい。  |
|         |       | 進路希望実現に向けた啓発活動、指導の体制の確立      | ②進路希望実現のための学力充実を図る。                     | ・授業第一主義と自宅での学習時間の確保（教務と連携）<br>・学年部と連携した進路指導体制を確立する。<br>・課外や模試等の見える課題の共有化を図る。<br>・学年や教科間連携による小論文指導、面接指導等の充実を図る。              | B  | 授業の充実を柱に学力の定着を図るため、補習や課外授業等が計画的に行われた。学年、教科の枠を超えた個別指導や添削指導等も活発であった。模擬試験等については事前・事後指導の検討や活用の研修などが望まれる。   |
|         |       | 進路実現に繋がるキャリア教育の実践            | ③職業観の育成、職場体験の機会を設ける。                    | ・職場見学会やインターンシップの実施する。<br>・職業講話や出張講義、職場体験の機会活用を進める<br>・LHRの効果的活用、総合的な学習の時間との連携強化を図る。<br>・教科活動を通じた職業観の育成・指導する。                | A  | 各分野における地道なキャリア教育の指導が、本人の希望に沿った職業の選択につながった。就職内定率は100%を達成し、進路保障の責任を果たすことが出来た。若年者の早期離職が社会問題になっているが、早期離職の抑制のためにもキャリア教育の充実を更に図っていきたい。   |
|         | 入試広報部 | 本校教育活動を中心とした情報の発信            | ①学校案内・看板ポスター等の作成や発信を充実させ、ホームページの活用を深める。 | ・理解し易い説明内容・資料の精選、職員への周知を図る。<br>・ホームページによる教育活動の適切な発信と更新を図る。<br>・部活動状況や成績等のプログ拡大する。   | B  | 本校の教育活動の状況や保護者からの声を紹介する「文徳点描」では、稼業期間は毎月発行。生徒の活躍を中心に情報の発信ができた。校内外への情報発信についてより効果的な方策を構築する必要がある。  |
|         | 事務部   | 教育環境の整備と予算の削減                | 教育環境の整備と教育予算の効率化を図る。                    | ・旧校舎の耐震改築工事を推進し、安全確保に努める。<br>・施設・設備の安全点検や不要物品の整理に努める。<br>・配分予算の執行状態を常に把握し、適正で計画的な支出を行う。また、効率化により予算削減に努める。                   | B  | 耐震改築（実習棟）に係る建設工事は順調であった。今回で校舎の耐震工事が完了し学習環境が充実した。今後は旧校舎の解体と駐輪場や庭園の整備等を行う予定である。また、施設・設備の定期点検を更に効率的に行い、修理や不要物品の整理等を迅速に行えるような体制を整えていかねばならないと考えている。予算については、予算削減の対応として前年と比較し遜色のない運営を行いながら物品の在庫管理を徹底し節約と工夫の呼びかけを行っていく必要がある。 |

評価基準 A：十分達成 B：概ね達成 C：やや不十分 D：不十分

|         | 小項目 | 評価の観点                     | 具体的目標  | 具体的方策   | 評価 | 成果と課題  |
|---------|-----|---------------------------|--|---|----|--|
| 各部及び理工科 | 理工科 | 工業教育を通して地域社会に貢献できる人材を育成する | ①専門教科で学んだ知識・技能を活かして資格取得に対する意欲を高めると共に進路実現を保證する。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・実習や各授業において基礎から分かりやすい授業を行い、生徒の興味・関心を高め、学習内容を理解させる。</li> <li>・学年また専攻毎に資格取得に取り組むことで意識を高め達成感を体得し、更に上級の資格に挑戦する教育活動を進める。</li> </ul>       | B  | 各専攻毎に専門教科の到達目標を定めており、専門を活かした進路指導が実現できた。今後は家庭学習の習慣化が課題である。特別進学コースは、今年度も国立大学や高専への進学が多く見込まれる。 |
|         |     |                           | ②キャリア教育を推進する。                                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学科指導や教科指導、進路別ガイダンス指導を活用し一人一人の人生設計を図らせる。</li> <li>・インターンシップや企業講話などを実施し、職業観を育成する。</li> <li>・崇城大学での体験講座等を活用し、専門教育の学びの場を広げる。</li> </ul> | B  | 進路講演会やインターンシップ、崇城大学での体験授業等も例年通り実施。新実習棟完成に伴いさらに充実した実習や物づくりを中心とした自ら考え実行する学習指導を計画する必要がある。     |

評価基準 A：十分達成 B：概ね達成 C：やや不十分 D：不十分

## 4 学校関係評価

\* 生徒による評価（アンケートから）は、次のようなものであった。

◇：そう思う、どちらかと言うとそう思う、の肯定的な回答

◆：そう思わない、どちらかと言うとそう思わない、の否定的な回答

（文徳高校生として）

- |   |       |       |
|---|-------|-------|
| （1）明るく元気に学校生活を送っている。                      | ◇ 90% | ◆ 10% |
| （2）挨拶をする、服装をきちんとする、時間厳守等基本的な生活習慣が身についている。 | ◇ 86% | ◆ 14% |
| （3）授業に積極的に取組、落ち着いて学習に取り組んでいる。             | ◇ 79% | ◆ 21% |
| （4）体育大会や文化祭等の学校行事に意欲的に取り組んでいる             | ◇ 79% | ◆ 21% |
| （5）相手の立場を考えたり、思いやりをもって学校生活を送っている。         | ◇ 89% | ◆ 11% |

（学校生活や指導の在り方について）

- |                                 |       |       |
|---------------------------------|-------|-------|
| （6）分かりやすい授業が行われている。             | ◇ 96% | ◆ 4%  |
| （7）学校行事は活発に行われている。              | ◇ 50% | ◆ 50% |
| （8）部活動は活発に行われている。               | ◇ 96% | ◆ 4%  |
| （9）学校の設備はよく整備されていて、安全な生活が送れている。 | ◇ 98% | ◆ 2%  |
| （10）心身の健康作りに向けた指導が適切に行われている。    | ◇ 88% | ◆ 12% |
| （11）一人ひとりの学力向上・進路指導が適切に行われている。  | ◇ 88% | ◆ 12% |

・平成25年度と比べ、(1)～(5)の項目については数値に大きな変化は見られなかったが、(6)、(8)～(11)については10ポイント以上肯定的な意見が上昇している。学校生活や教育活動の場で生徒が積極的に活動している姿勢が窺える。(7)については否定的な回答が昨年より17ポイント上回り、半数の生徒が満足していない結果となった。今後細かい検討の上具体的な改善に繋げていかなければならない。

\* 学校評議員による評価

本校評議員の方々のご意見等

◇容儀指導や生活指導が適切に行われ、規律正しい校風であると感じる。

◇難関大学を目指す生徒や部活動を中心に生活を送る生徒など、多様な生徒の夢を叶える指導ができています。また、時間の確保が難しい中、文武両道に動いている生徒のためにも学習と部活動において調和の取れた指導が行われていると思える。

◇入学志願者が多く、県内全域から評価されていると感じる。今後も信頼される教育活動を継続してもらいたい。

◇実習棟の耐震改築工事など、安全性と機能性を考慮した施設が整備されている。今後も更に教育環境の整備を推進してほしい。

◇保護者を対象とした公開授業は、本校の教育活動を理解してもらう上で役立っていると思う。

◇女子生徒が増加している。女子生徒が部活動等で活躍できる環境を整え、更に活気ある学園にしてほしい。

◆文科系部活動があまり活発に行われていないように思う。積極的に活動するよう指導してもらいたい。

◆耐震設備でない建物がまだあるので、できるだけ早く整備してほしい。

## 5. 総合評価 本年度の重点目標である下記の4項目について評価を行う。

## (1)生徒指導

「生活信条を実践し、心豊かで社会に貢献できる人材の育成」については、概ね達成できたと言える。アンケートによると生徒の評価も約9割の生徒が「基本的な生活習慣が身につく、楽しい高校生活を送っている」と回答している。ただし、社会的風潮が「集団との協調」に欠ける傾向が見られる。

## (2)学習指導、進路指導、広報活動の更なる充実

「基礎学力向上」を大切に学習指導を行っている。アンケートによると生徒の学習への意欲は成績上位層と下位層でばらつきがみられた。職員アンケートでは「家庭学習の習慣化を図り、自ら学ぶ意欲を身につけ、学習能力を高める」については十分には達成できていないという結果であった。進路指導においては、国公立大学の医学部医学科へは複数名が合格し、就職は今年も100%の内定を得ている。広報活動においても、多くの受験生が集まるなど、地道な活動が功を奏していると思われる。

## (3)教育環境の整備

教育環境の整備については平成26年3月、長年の懸案であった体育館が竣工し、生徒達や部活動が喜んで活用している。また、理工科・家庭科の実習棟についても今年度内に完成を目指し工事が進んでいる。工事が完成し旧校舎を解体すると一層教育環境が充実したものになると思われる。

## (4)生徒の諸活動(学校行事、部活動、生徒会活動)の充実

生徒の校内活動活性化のために多くの運動部および文化部を準備しているが、数年前から部活動加入率が減少傾向にあるように思われる。難関大学を目指す生徒の増加もあるが、文武両道を成し遂げる生徒の育成が肝要である。生徒会活動については、自ら学校をよくしていこうというリーダーが存在している。生徒の意見や要望を取り入れ活性化を図りたいと母校愛に満ちた生徒が多く育ってきている。行事については、生徒アンケートでもわかるように、生徒たちは満足していない。生徒会での企画などを活性化させていく必要がある。

## 6. 次年度への課題・改善方策

- 生徒指導については、基本的な生活習慣が身につく、皆勤・精勤の生徒が6割を超える状況下にある。しかし遵法精神や協調心、ボランティアへの参画など、社会性を育てる教育を強化していかなければならない。
- 学習指導や進路指導に関しては、生徒の意識、計画性や主体性の伴った学習習慣はまだ十分とは言えず、永遠の課題であると言える。本校には多くの特色あるコースがあり、多様なニーズを持った生徒が存在することから、学習指導計画を綿密に立てる必要があると思われる。日常の学習指導と併せ、生徒の実態に即した学習指導と進路指導を行っていく必要がある。
- 教育環境については、実習棟完成をもって一応の計画が達成できた。今後は敷地内の安全点検や緑化をはじめとした憩いの環境も含めた計画が必要になると思われる。
- 生徒活動の活性化については、生徒が毎日喜んで登校してくる学校を目指さなければならない。一人ひとりが夢を持ち、目標を叶えるために毎日を生活する。そんな充実した学校環境を整えていく必要がある。